

2018年4月6日(金)～5月6日(日)

春の全国交通安全運動



スローガン **気づいてますか？自転車・バイク・人・クルマ**

2017年、自動車総連内では組合員の方が被災者となった交通事故による重大災害が6件。日産労連でも、3件発生。特に通勤時の災害が続発しました。今春、生活環境の変化などで通勤・通学時の交通事故の発生が懸念されます。

ほんの少しの油断が深刻な結果を招くこともあり、自動車・バイク・自転車・歩行者それぞれが、万が一に備えて安全意識を高めることが重要です。

日産労連 重点取り組み項目

1. 子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
2. 自転車の安全利用の推進 (特に、自転車安全利用五則の周知徹底)
3. すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
4. 飲酒運転の根絶
5. 通勤時の交通事故防止

自転車安全利用五則

- 1 自転車は車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を走行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
- 5 子どもはヘルメットを着用

充分な KY(危険予知)を!

自動車では

運転時には、「認知」「判断」「操作」のサイクルを繰り返し、いずれかの人的ミスで交通事故が発生します。特に「認知」の欠如が原因となるケースが7割ともいわれています。しかし、認知できる情報には限界があるので、目で見ただけでなく「予測」を怠ってはいけません。



対向車線を直進してくる二輪車が接近してくる**かもしれない**。

対向左折車の陰から人が出てくる**かもしれない**。

右側の死角から横断歩道を渡ろうとしている人や自転車などがくる**かもしれない**。

KYポイント

大丈夫「だろう」ではなく、危険が潜んでいる「**かもしれない**」のKY(危険予知)の意識を持ちましょう

歩行者・自転車では

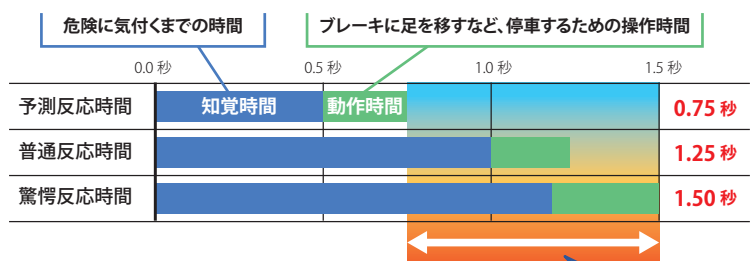
「気づかれていないかも」の意識で

自動車のドライバーが「こちらに気づいていないかも」「急な右折(左折)をしてくるかも」という危険意識を持つことが重要です。



「予測」の効果

「予測」をしないとしないのでは、停車するまでに最大8mの差があります。(時速40km/hの場合)



予測反応時間 = ブレーキが必要だと警戒し、注意している状態
 普通反応時間 = 前車がブレーキをかけて反応するような状態
 驚愕反応時間 = 突然歩行者が現れ、びっくりして反応するような状態

(出典：日本自動車連盟 (JAF) HP)

最大0.75秒差!
→距離にして約8m



それぞれの立場で常にKY(危険予知)を行ない、交通事故を未然に防ぎましょう!